

# 風流

第十号



## 日本におけるイタリア2009・秋 —人生と創造のわざ—

イタリア文化会館 館長

ウンベルト・ドナーティ



「日本におけるイタリア2001年」、  
「2005年愛知万博 イタリア館」、「日本  
におけるイタリア2007・春」等、これ  
までにイタリアを紹介する様々なプロモ  
ーション事業を展開してきました。この事業の  
一環として、2001年に国際芸術家センター  
と長年にわたって交流を続けているコーリ旗  
手団を招集したこと、私同様、皆さんもまだ  
記憶に新しく残っていることと思います。日  
本の皆さんにはすでに、芸術、文化、ライフ  
スタイルなどイタリアが発信するあらゆるも  
のに大きな関心を寄せ、情熱を注いでいた  
いでいます。

現在、在日イタリア大使館、在京のイタリ  
ア公的機関(イタリア文化会館、イタリア貿

易振興会、イタリア政府観光局、イタリア銀行、  
在日イタリア商工会議所)は、今秋からはじ  
まる大規模プロジェクト「日本におけるイタ  
リア2009・秋—人生と創造のわざ—」の  
開催準備を進めています。全国で開催される  
数々の催事を通して、伊日両国の相互理解と  
さらなる親密化の増進プロセスが続き、日本  
におけるメイド・イン・イタリア製品の普及や、  
多くの日本の友人の皆さんが、イタリアに足  
を運んでいただく一つのきっかけになればと  
願っております。

「現代の世界におけるイタリア」をテーマと  
するこの催しでは、歴史と文化の遺産にしっ  
かり根を下ろしたイタリアの現代性と、イタ  
リアと日本のあいだにかけられた理想の橋の

上に登場する現在と過去の様々な姿が紹介さ  
れる予定です。昔から日本においてイタリア  
が強みとしている文化は、イタリアのイメー  
ジを増幅する上で中心的な役割を果たし、さ  
らなるイタリアの魅力を引き出してくれるで  
しょう。

プロモーション事業の一環として、イタリ  
ア文化会館では、現在、1800年代のイタ  
リアのきわめて重要な絵画運動であり、19世  
紀半ばのヨーロッパにおける最も初期の前衛  
派(アバンギャルド)の一つであるマッキア  
イオーリ展を準備して、広島のみくやま美術  
館と東京都庭園美術館で開催いたします。マッ  
キアイオーリ派とよばれる色斑描法の画家の  
中でも最も有名なジョヴァンニ・ファットー  
リの貴重な作品もご覧いただける良い機会で  
すので、多くの皆様に足を運んで頂けること  
を望んでおります。

また、展覧会開催に際して、ふくやま美術  
館、京造形芸術大学でイタリアからクリス  
ティーナ・アチデーニ氏(フィレンツェ歴  
史美術・民族人類学文化財およびフィレンツェ  
市国立美術館連合特別監督局長)を招いて記  
念講演、そして当館で関連セミナーを企画し  
ています。この機会に、日本の皆さんには、  
今まであまり紹介されてこなかったマッキア  
イオーリ派の芸術の諸相をこの展覧会を通し  
てあじわって頂けるのではないかと思います。  
そのほかにも、「古代ローマ帝国遺産—栄光  
の都ローマと悲劇の街ポンペイ」展が上野の  
国立西洋美術館で開催され、その後全国へ巡  
廻しますし、ミラノ・スカラ座が来日し、N

HKホール、東京文化会館で、「アイデア」と  
「ドン・カルロ」を披露します。その他にも、  
トリノ・エジプト展、ボルゲーゼ美術館展(仮  
称)など、ここで全ての催しをひとつひとつ  
ご紹介することは出来ませんが、これ以外に  
も興味深い多くの催しを準備しております。

もちろん、芸術面だけではなく、イタリア  
が誇るテクノロジー分野、科学、センター産  
業部門にも注目していただきたく、自動車・  
航空宇宙産業促進プロジェクト、大流通プロ  
ジェクトなど、様々な伊日共同企画も用意し  
ております。イタリアは歴史、文化、芸術を  
誇る国ではありますが、その革新性や主要産  
業におけるバイタリティーもその強みとして  
います。このような共同企画のおかげで、伊  
日双方の研究者の交流が増大し、またスピ  
ンオフ、産業投資の活発化も同様に見込まれ、  
そのことが相互に尊重しました魅了しあうこと  
につながるのだと思います。

この催しの意義は、日本のような偉大な国  
と協力関係を持つとする意志のなかにあり  
ます。数々の催しを経て、さまざまな面での  
合意や一致に向けた歩みと、長期的で建設的  
な関係がさらに強化され、新たな力を秘めた  
強い関係が結ばれることを願っております。

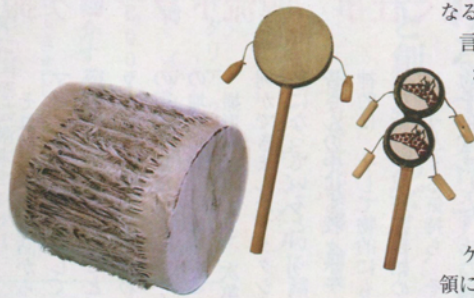
このように、「日本におけるイタリア  
2009・秋」の主旨は、そのイベントの豊  
かさだけで表されるのではなく、両国の深い  
友情の絆に構造的な永続性を持たせ、お互い  
の文化と産業の融和による増幅効果の創出と  
いう関係者、参加者個人の意志にあるといえ  
るでしょう。

こんにちは、大使館

●ケニア—国旗に表された歴史と意思、オバマ米大統領との縁をもつ国



三等書記官  
ドロシー カメネ デイワさん



牛皮製のンゴマ（スワヒリ語で太鼓の意味）とケニアのデンデン太鼓

「カリブ ニュンバニー」（スワヒリ語で「ようこそいらっしゃいました」の意味）と、われわれ国際芸術家センターの一行を迎えてくださったのは、在東京ケニア共和国大使館の三等書記官ドロシー カメネ デイワさん。東京・目黒区の閑静な住宅街の中にある大使館の応接間だ。スワヒリ語は英語と並ぶケニアの共通語。42の民族からなるケニア人を結ぶ大切な言葉の絆だ。各民族はそれぞれの独自の言語を持っている。ケニアの学校では、授業は基本的に英語で行われるが、スワヒリ語は重要視され毎日2時間程度教えられる。

「ケニアには民族紛争がほとんど無い。スワヒリ語が国民を統一し、すべての国民を平等にしていることが背景にあります」とデイワさんは説明する。

2008年11月、ケニアは国中がアメリカからもたらされた「ビッグニュース」に沸いた。

ケニア人を父に持つバラク・オバマがアメリカ初のアフリカ系大統領に当選したからだ。ケニア政府はこれを祝賀して当選確定日の翌日（ケニア時間）を国民の祝日にした。ただし、1年限りの臨時祝日だ。

デイワさんは「ケニアの人々はオバマさんを応援しました。ケニア人としてオバマ大統領は大きな誇りです。しかし、オバマ大統領はあくまでもアメリカ人であり、ケニアはオバマ大統領から特別な恩恵を受けるものではありません」とクールな受け止めかただ。

日本から見ると、ケニアといえばおいしいコーヒー・紅茶、広大なサファリと数多くの動物—というのが共通のイメージだ。最近これにバラなどの切花が加わり、日本に連日空輸されている。サファリ観光はケニアの重要な観光資源。産業の約20パーセントが観光収入だという。

黒、赤、緑の横の模様と盾と槍のマークの入ったケニアの国旗が応接間の壁にかけてある。黒は肌の色、赤は独立で流された血、緑は豊かな農地をそれぞれ意味し、盾と槍は国を守る準備が出来ていることを意味するという。ケニアの豊かな風土とそして苦難の時代の歴史を秘めたデザインであった。



タスカービールとサトウキビから作ったジン



Republic of Kenya

文：山下靖典 (IAC 準会員) / 写真：藤倉明治 (IAC 会員)

●セルビア—東西文明の交差点、偉大な電気科学者テスラの故郷

長い間東西の文明が交差してきたバルカン半島。ヨーロッパ的なものとアジア的なものが交り合って独特の雰囲気を作り出してきた。その一角にあるセルビアは、旧ユーゴスラビアを構成していた共和国のひとつとしての方が知られている。

セルビア大使館はJR品川駅と大崎駅の間の閑静な住宅地の中にある。ホールの片隅に一風変わった金属製の蓋付ボールのようなものを、三等書記官のアレクサンドラ・コヴァッチさんが見せてくださった（写真）。電源を入れると金属の卵のようなものが回りだし次第に縦に立ち上がって回りだす。説明によると磁場の力を利用して卵が回りながら立つのだという。セルビア人の両親を持つ電気科学者ニコラ・テスラの発明した原理を応用したものだというが詳しい説明はなかった。セルビアに駐在した日本大使のプレゼントだという。テスラは交流電気の利用を主張して直流電気派のエジソンと対立した。日本では発明王としてエジソンが有名でテスラはほとんど知られていない。

交流電気が主流となっている今日テスラの正しさが実証されている。「テスラはセルビアの誇りです。100ディナール紙幣にはテスラの肖像が描かれています」（コヴァッチさん）

セルビアは人口985万人（2008年）の決して大きいとは言えない国だ。セルビアと日本の外交関係は古く1882年にまでその始原をさかのぼる。だが、バルカンで何度も起きた戦争の影響もあり、日本とのかかわりは決して深いとは言えない。内戦の傷が癒えつつあるこれから日本との関係の深まりが期待されている。

コヴァッチさんはベオグラード大学で日本語を学び、日本に留学、極めて流暢な日本語を話す。それだけではなく日本の弓の達人でもある。「日本の弓は武器というより禅のような哲学的なものを感じます」と語る。学生の頃、NATOの空爆にあり、自宅のすぐそばの軍施設にも爆弾が落ちた。戦争の恐ろしさを身をもって感じたコヴァッチさんゆえ、日本の弓の持つ哲学性に引き付けられるのかもしれない。



伝統的なセルビアの民族衣装  
(中西部シュマディヤ地方のもの)



毛糸の靴下

オバンツィと呼ばれる牛皮製の靴



三等書記官  
アレクサンドラ コヴァッチさん



Republic of Serbia

文：山下靖典 (IAC 準会員) / 写真：藤倉明治 (IAC 会員)

●カザフスタン—豊かな自然・豊富な資源をもつ、平和と調和の融合する国



二等書記官  
クルマンセイト バトルハンさん



結婚式でのベタシャル（花嫁を花婿の親族に紹介する顔見せの儀式）  
「Modern Kazakhstan」より

目黒区碑文谷にあるカザフスタン大使館は、私がインタビューに伺った日の空のような眼も覚めるような、広いカザフの大地を包みこむような明るいブルーの国旗をなびかせていました。大使館の玄関を開けて歓迎して下さったのは、お話を聞かせて下さった二等書記官のクルマンセイト・バトルハン氏でしたが、そのお顔が日本人とあまりにも似ておられたので、びっくり。やはり、遠い昔にどこかで私達祖先が繋がっていたのだと実感しました。

カザフスタン共和国は中央アジアに位置する近年経済成長の著しい国の一つです。豊富な自然資源をその広大な大地に有していることで、日本を始めとして多くの輸出をしていて国家の経済基盤はなっています。しかし現在、世界的な経済リスクにも対応できる様な資源の輸出のみに頼るのではなく、何らかの付加価値をつけて輸出できるようにして、強固な経済的基盤を作っていくと考えていると、書記官は真剣な眼差しで、熱く語っておられました。

その為には、日本が持っている世界的な技術力がとても自分達にとって大事なものとなるのであり、資源がないが技術力の優れる日

本と資源を有するが技術力を欲するカザフスタンとが互いに協力をすれば、両国の国家の安定と発展を目指すことができるというスタンスにおいて、大使館存在の価値があるのですとも。

カザフスタンは100以上の多民族の集まりから構成されている国家だそうです。「カザフスタンを一言でいうとどの様な国家でしょうか」という質問に、「わが国は小さい国連と呼ばれているほどの国で、平和と調和がまさにカザフスタン国を象徴するものです」との答えをいただきました。100以上の民族の平和共存こそが、この国の誇れるところで、それをまさに現しているのが、外務省が日本国民向けに発表する海外安全情報に一度も載った事がないとの書記官の胸を張った言葉が、とても印象的でした。



カザフスタンに暮らす多民族の人たち  
「Modern Kazakhstan」より



Republic of Kazakhstan

文：木川るり子 (IAC 準会員) / 写真 (「Modern Kazakhstan」を除く)：藤倉明治 (IAC 会員)

IAC が世界各国と文化交流を行う時の強力なパートナーは、各国在日大使館です。民族芸術シリーズの公演に加えて、風流の紙面でもそれぞれの国の状況をお伝えする。当欄の2回目では、3つの大使館を訪問しました。取材した若き外交官たちから発せられる、それぞれの国をもっと日本人に知って欲しい、という熱いメッセージには圧倒されました。

このコーナーは、引き続きIAC会員の取材で構成したいと思います。ご興味がある方は事務局に奮ってご応募ください。



# 「わがまちで文化交流」……①

秋田県：田沢湖 ホテル イスキア

<http://ischia-hotel.jp/>

## 笑顔を頂く仕事 韓流ドラマロケ撮影受け入れの三週間

三週間の撮影が終わり、お別れの時、目に涙を浮かべ「日本のお母さん、また来てほしいですか」と一人の女性スタッフに言われました。いつでもいらっしやい、日本にも貴方を待っている人がいるからね、言葉の壁はあるけれど、心は壁を越えることもできるから。笑顔で頂く仕事をもう少し現役で続けていきたいと思っています。

写真と文：佐藤京子 田沢湖ホテルイスキア 女将



イ・ビョンホンさん（後列中央）と佐藤京子さん（前列中央）

それは一本の電話から始まりました。韓国の映画制作会社がイ・ビョンホン主演ドラマ撮影地を日本で探しているが、誘致する条件は三週間貸し切りで撮影スタッフ八十名の宿泊提供です。とのこと。もし韓国ドラマが、それも有名な俳優イ・ビョンホン主演のドラマロケが秋田県で行われれば、この地域にとって絶対プラス。しかし、三週間、八十名の宿泊を無償提供とは……一民間企業で負担できる金額ではないという思いと停滞するこの地域に新しい風をおこしたい思いが交錯する中で、受け入れをその場で決めました。撮影が始まると、次第にホテルの外には韓国俳優皆さんのファンの方々が集まり、行列ができました。タクシーは駅前から消え、ホテルの前に集まり、近隣のレストランは満席になっていたという話が伝わってきました。その頃から、ファンの方だけでなく地域の皆さんにも我々ホテルのドラマ撮影支援を応援してくださる方々がたくさん現れ、精神的に、そして物的にも我々は支えられ、勇気づけられました。判断は間違っていないなかつた、新しい風が吹き始めたとその時に実感しました。経済効果だけでなく、地域を元気にしようとする気持ち、その気持ちを共有できる方々との出会い、お金には変えられない宝物を頂きました。また撮影期間中には、俳優の皆さん、韓国撮影スタッフ、ファンの皆さん、そして地域の皆さん、多くの方々からのたくさん笑顔の笑顔頂きました。ホテルの仕事は「笑顔で頂く仕事」と改めて気づくことができました。

IACの世界の民族芸術シリーズは、特にここ数年は、各国在日大使館からの急な依頼が多く、準備の都合でどうしても首都圏中心の事業になりがちです。さらに、世界不況も重なり、東京から離れた地域で公演を行うことは益々難しくなっています。しかし、このような状況下でも、地方で元気に海外との文化交流を果たしている方々がいまいます。その様子を、今後、風流で、「わがまちで文化交流」として紹介し、将来的には地方とIACとの協力を、首都圏とは異なる形で文化交流を実現させたいと考えています。秋田県の田沢湖ホテルイスキアは、今年3月、韓国ドラマ「アイリス」の日本ロケに全面的に協力し、秋田の知名度アップに大いに貢献しました。ホテルをあげての撮影スタッフの受入が、地域の人々も動かし、日韓交流への素晴らしい実績になりました。その様子をイスキアの女将の佐藤京子さんに寄稿いただきました。

広告

和・洋雑貨の専門店

ZAKKAS pul-pul

By: (有) ふくろう企画

ヨーロッパからの輸入雑貨、鳩時計。  
上質の紅茶。  
和もの手作り品。  
広島熊野・化粧筆、毛筆、画筆など。  
その他、色々取り扱っています。

広島市中区白島北町 12-2 Tel & Fax 082-211-3133

募集のお知らせ

- IACの活動に参加・ご支援いただける法人・個人会員を募集しています。
- 日本民族舞踊団の研究生募集 体験レッスンあり

詳しくは、事務局にお問い合わせ下さい。  
NPO 法人国際芸術家センター  
TEL: 03-5426-2047 FAX: 03-5426-2048

事務局便り

■「ベネズエラの音楽団」の今秋の来日公演の相談を受けています。世界不況の中、文化交流はさらに難しくなっています。この音楽団も資金調達に奔走している様子ですが、来日決定の知らせが在日ベネズエラ大使館から届くのを毎日待っています。公演が決まりましたら、皆さんにご案内いたします。

■「食から知る民族文化」として、各国在日大使館の外交官による自国の料理紹介とその背景にある生活や文化についてのお話を聞く会を開催します。初回は「南米エクアドルの郷土料理とその文化」で9月開催の予定です。詳細が決まりましたらお知らせしますので、奮ってご参加ください。

■「シリア」をご自慢の写真で紹介したい方を募集します。シリア政府観光局のガイド付き撮影旅行で、帰国後、写真展でシリアを紹介してください（グループ参加歓迎）。在日シリア大使館との協力事業で費用や日程などこれから調整します。ご質問、ご提案など、ご遠慮なくIAC事務局へご連絡ください。

■「わがまちで文化交流」、この度が初回のこのコーナーにご登場いただける方のご紹介（自薦、他薦問わず）をお願いします。

(理事・事務局長 金屋輝美)

